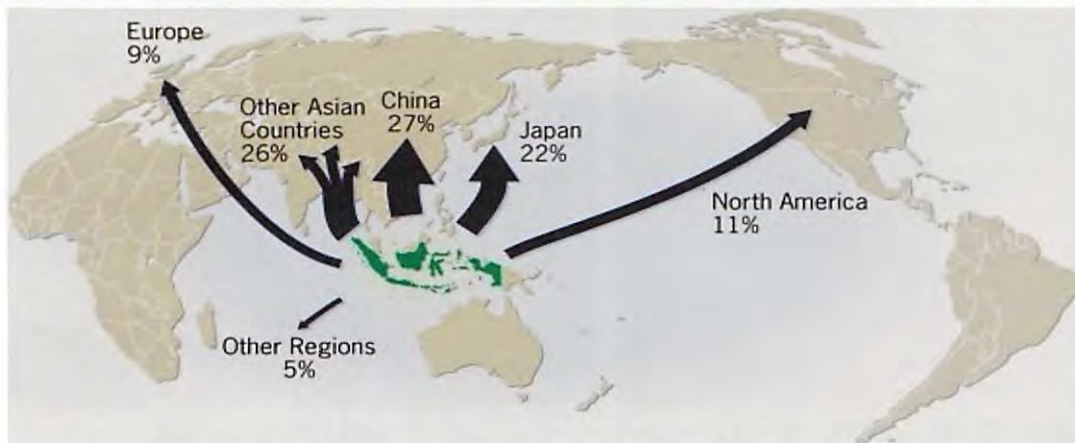


### 3、インドネシアでの違法伐採、マレーシア等の違法貿易



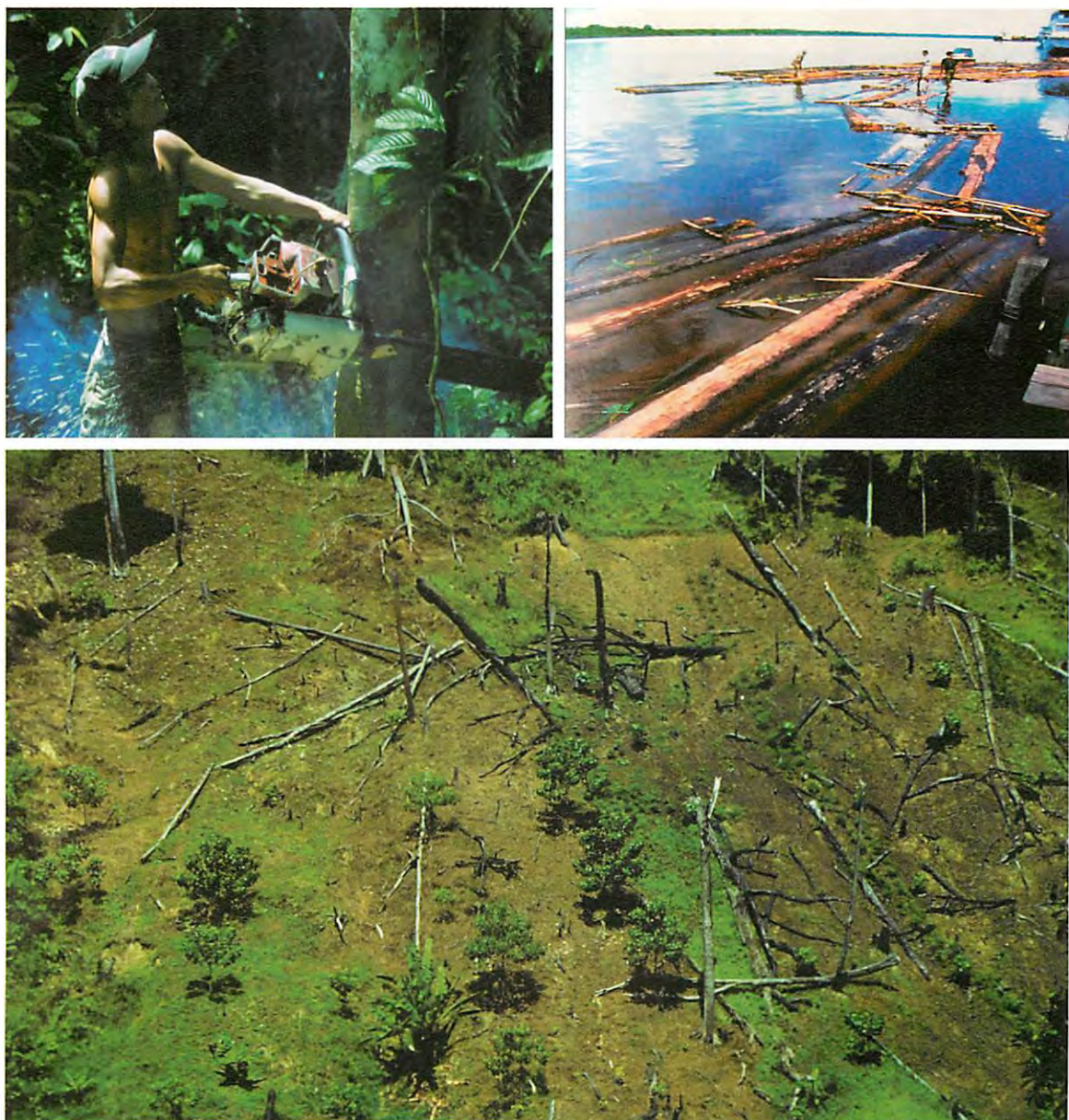
(図上:インドネシアからの主な違法材ルート 図下:インドネシアからの木材の輸出先 by: Forest Watch Indonesia 2004 年)

フィリピン、マレーシアのサラワク、サバ州、インドネシアのカリマンタンのボルネオ島、スマトラ島等で原生林の消失が進み、インドネシア、サバ州、フィリピンで熱帯材丸太の一時的輸出禁止措置が1985年以降になされた。森林破壊は1990-1995年にかけて少し速度が落ちた。ところが図で示すように、安価のインドネシア材をマレーシア、シンガポールを経て、EU、日本、米国、中国等へ運ばれるようになった。それが違法伐採・違法貿易と大きく繋がっている。インドネシアで低地開発の後、1980年代より違法伐採が行われだした。

インドネシアで伐採禁止の国立公園、保護林や私有地も1980年代後半から伐採された。1990年前半の年間伐採量は約6千万 $m^3$ で、持続可能な伐採量の3倍(\*1)に相当するものだった。南スマトラ、西カリマンタン、南カリマンタン等の30州では1990年代に森林面積の半分が消滅(\*1)した。違法伐採の推定量は年2400-5400万 $m^3$ で(\*2)、インドネシアの全木材生産量の約5-9割を占めていた。最も破壊的は、アブラヤシ農園開発に転用させるもの、次は秘密操業での盗伐、密輸で、2種の大半がスハルト関係者や軍、警察、地域ボスが後ろ盾をしていた。

(\*1)インドネシア林業省、Forest Watch Indonesia (\*2)Telapak 推計7-9割、CIFOR調査は約4割、Yayasan Titian 調査 8-9割

## 1)ただ同然で巨額を得るビジネス—インドネシアの各国立公園での違法伐採・違法貿易①



(写真上左・タンジュン・プティン国立公園でラミン伐採 1999年/右・同公園近く Kumai 港のラミン違法取引 2000/下・破壊されたタンジュン・プティン国立公園) 撮影 by Telapak(テラパック) & EIA(イーアイイー) 1999-2002

インドネシアのカリマンタンは、ブラジルのアマゾンと並ぶ地球で最も多様性に富む熱帯林だ。オランウータン、トラ、ゾウ、テングザル、ギボンなどこの島だけの動物が多く住む。フタバガキ科の樹木も267種、約30000種類の樹木が生えてきた。だが中カリマンタン州のタンジュン・プティン国立公園は、写真や図のように大半が違法伐採で破壊された。タンジュン・プティン国立公園だけでなく、同州セバンガン国立公園、マウス公園、ラマンドゥ保護区も同様である。違法伐採の主な木材がラミン、ウリン(ボルネオ鉄木)、ガハル、ビントアンゴールなど希少な樹である。

違法伐採・違法貿易を駆り立てている要因は、巨額を求めるビジネス。木材マフィアが横行した。国立公園や保護区の森の伐採ではほとんど費用も要らず、その木材をマレーシア、シンガポールを通して、国際市場に売れば、ラミン材の場合は100-千倍の価格ともなるから。そのため木材マフィアだけでなく、他の木材企業、地域ボスや貧困の労働者が、1980年後半より国立公園内や保護区の森で違法伐採し、その木材を取引する違法貿易を広範囲の地域で行いだした(\*)。

(\*)『Illegal Logging in Tanjung Putting National Park』1999、『Final Cut』2001 by EIA/Telapak及び『違法材ラミン停止宣言』2008 by HUTAN Group 他

## 2) 違法伐採・森林破壊の最大の要因—インドネシアの公園での違法伐採・違法貿易②



(上図: インドネシア \* カリマンタン州タンジュン・プティン国立公園で 1990 年後半のラミン材違法伐採のルート)

(中・1990 年代後半タンジュン・プティン国立公園で月 3 万 m<sup>3</sup> 違法伐採の A ラシッド氏経営タンジュン・リンガ社 1999 年) by Telapak



(写真下・違法伐採停止タンジュン・プティン公園 Sg ブル・クチル 2005/中カリマンタンからラミン違法貿易 2001) by Telapak & HUTAN



持続可能な森林経営を阻害する最大の要因は違法伐採。違法伐採は木材生産国の森林減少を引き起こし、二酸化炭素の放出、生物多様性や森林生態系を損なわせるだけでなく、第3国の森林経営も脅かしている。自らが巨万の富を得る違法伐採・違法貿易は、世界と地球への悪質な挑戦である。

ボルネオ島でも、サラワク州などで1980年代に過剰に伐採された後、1990年頃よりインドネシアの国立公園や保護区等で違法伐採が行われた。写真・図は、スハルト政権と「ふんけい」の友となったAラシッド氏のタンジュン・プティン国立公園内でのラミン材等の違法伐採と違法貿易である。Aラシッド氏などは、シンガポール、マレーシアの企業と連携し、両国へ違法貿易を続け、巨額の富を得た。1990年代末、彼らは言う「カリマンタンは違法伐採の天国だ」(\*)。

(\*)「カリマンタンは違法伐採の天国だ」—『The Inside Indonesia Magazine』64号、2000年—[Ethnic fascism in Borneo]より、Aラシッド氏らのコメント

3) インドネシアNGOsの取組み—インドネシアの各国立公園での違法伐採・違法貿易③—

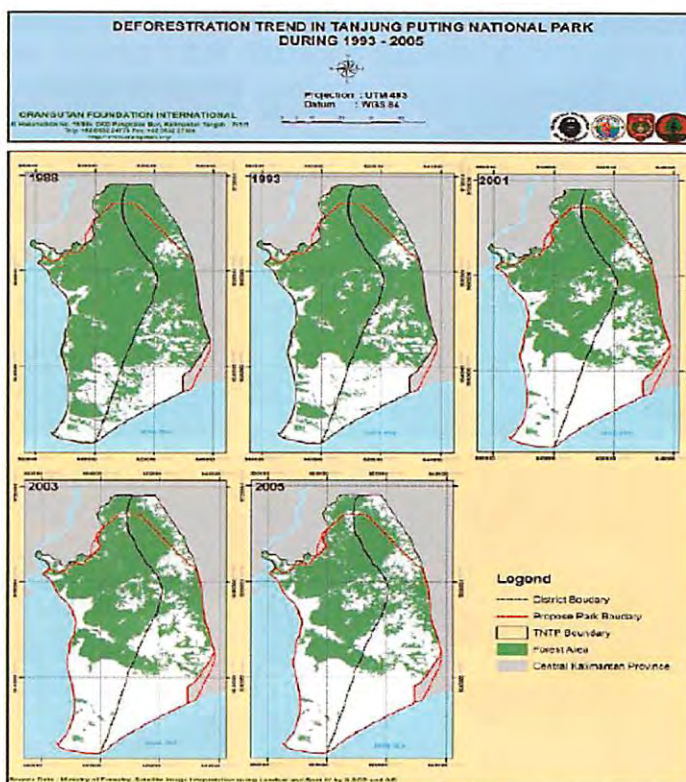


Figure 10: Deforestation In Tanjung Puting, one of the 37 national parks affected by logging and oil palm plantations.



(写真上・カリマンタン保護区破壊 byフォレスト・ウォッチ・インドネシア/下・タンジュン・プティン公園で違法伐採 byEIA/Telapak2000年 (図・1988-2005年にTリンガ社等に違法伐採されたタンジュン・プティン国立公園)by インドネシア林業省

やっと1998年に、G8(先進8カ国)サミットで「違法貿易の停止」を決議した。2002年のヨハネスブルグ・世界サミット(WSSD)でも世界が「違法材の貿易停止決議」を採択した。国際熱帯木材機関(ITTO)でも、2002年から「違法貿易停止」を掲げ、取組むようになった。これはインドネシア環境団体、世界のNGOsの訴えにもよる。

これらの国際的な取組み・決議や違法問題を取り締まる責務があるにもかかわらず、マレーシアとシンガポールは、インドネシアで急速に消失し続ける森林を犠牲にし、利益をあげ続けていた。Telapak(テラパック)とEIA(イーアイイー/Environmental Investigation Agency[以下 EIA と記載])、WALHI(ワルヒ/FoE Indonesia)、フォレスト・ウォッチ・インドネシア(FWI)等がマレーシア、シンガポールに違法貿易を止めるよう繰り返し依頼していたにもかかわらず、。

4) 政府、警察等へ停止申入れーインドネシアの各国立公園での違法伐採・違法貿易④



(写真上・破壊された中カリマンタンの保護区で違法伐採し操業する製材所 2002 年 by Telapak &EIA)



(2005 年 10 月撮影: 写真上・インドネシア西カリマンタンのグヌン・パルン国立公園内外での A Kusuma Group の伐採と搬出、下・同公園から小船で運び、マレーシア・サラワク州へ密輸。2007 年、インドネシア政府の行動で大半違法伐採停止、2007 年に木材企業 A Kusuma Group 責任者逮捕)ーインドネシア NGO・Telapak と共同調査ー写真 by 全て HUTAN Group 西岡

中カリマンタンのタンジュン・プティン国立公園、セバング国立公園内だけでなく、西カリマンタンのグヌン・パルン国立公園内でもラミン、ウリン材の違法伐採がされていた。ウータンは Telapak と共同調査を実施し、違法伐採が継続して行われていたので、調査後に森林警察へ「一部の警官が業者と癒着。パトロールするように」と依頼。その後、インドネシア政府は違法伐採の停止へ動き出し、2007 年秋、この地でも違法伐採の操業に警察も動き出して、木材企業の責任者が逮捕され、違法伐採は停止(\*)した。

(\*)グヌン・パルン国立公園で違法材停止と木材企業逮捕・KAIL の 2007 年 11 月招聘のダルマワン氏から聞き取りとネット You Tube によりー



2001—2003

(写真左上・タンジュン・プティン国立公園でラミン材等の違法貿易／中・スマトラ島から密輸／右・スマトラからマレーシア・マラッカへラミン取引) by Telapak



### 5) インドネシアで違法伐採後、マレーシアへ違法貿易—

(2000年—2003年まで、Telapak, EIA の調査、密輸停止依頼後も、次々運ばれたラミン等の違法伐採材) by Telapak, EIA

1998年から英米の環境保護団体 EIA とインドネシアの Telapak は、調査で「マレーシア、シンガポールからの多くの輸出木材がインドネシアの違法材で、マレーシア等2国が違法伐採木材の中継地だ」と指摘してきた。フォレスト・ウォッチ・インドネシア、WALHI 等は「違法伐採が横行し、森林破壊がひどくなっており、違法伐採と違法貿易を即停止すべき」とインドネシア政府などに働きかけた。その後国際環境 NGOs の違法材停止へと行動が広がった。

2001年11月、違法伐採と違法な木材貿易の解決にインドネシアの政府は丸太輸出禁止を発効。同年11月1日インドネシア林業相との会合で、マレーシアのリム第一次産業相は「輸出禁止」を支持し、「インドネシアから丸太を受け入れない」と約束した。だが直後2002年5月 Telapak と EIA 調査で「マレーシア・マラッカ州とネグリ・センビラン州境のクアラ・リンギに、インドネシア・スマトラ島から密輸用の新規木材積み下ろし場ができていた」と。

半島マレーシアやサラワク、サバ州へインドネシア・カリマンタンとスマトラ島の国境から、2004年まで継続して毎年300-400万m<sup>3</sup>の違法インドネシア材が運び込まれたと推測されている。

## 6) 違法伐採、違法取引・貿易、価格操作、賄賂・森林犯罪

(写真下左・2000年セパンガン国立公園のラミン材伐採/ 右・2003年シンガポールに運ばれたラミン)



by Telapak

2007年の経済協力開発機構(OECD)の報告(\*)は「熱帯諸国、中国、ロシアの木材生産の20-90%が違法伐採による」と推定した。これは重要な問題指摘である。内容は「インドネシア66-88%、カンボジア90%、ミャンマー80%、マレーシア33-35%、エクアドル70%、ガーナ66%、アマゾン地域8割、ロシア2-4割の違法材」とある。違法材は汚職、腐敗と深い関わりがあり、OECDは「日本も1割強が違法材」と。OECDも緊急対策を講じるべきとまとめている。

(\*)『持続可能な開発に関する円卓会議—違法伐採と木材貿易に関する経済学』by OECD 2007年1月8-9日 Richard Doornbosch 他

### 違法伐採とは、

- ①国立公園、保護区、国有林等許可伐採出来ない区域での違法行為、
- ②その国の森林法等を守らない違法な伐採行為、
- ③賄賂による伐採権取得の伐採、
- ④無許可の伐採、
- ⑤保護樹種の伐採、
- ⑥許可された伐採量以上の木材伐採、
- ⑦急傾斜地、護岸、水源地のような伐採禁止区域での伐採、
- ⑧国や他人所有の森の盗伐、
- ⑨土地所有権の重複や所有権不明確地の森林での伐採、
- ⑩先住民が慣習的に利用していた森を、彼らに何の通知もせず、伐採する行為、
- ⑪軍事資金や貧困のための恣意的な木材伐採、など経済的要因や政治的要因が大半である。

### 違法搬出、違法貿易とは

- ①違法伐採材の搬出・取引、木材の輸出、
  - ②木材の密輸、
  - ③国の禁止令に反する木材の輸出・輸入、
  - ④CITES(ワシントン条約)等の国際法取引で禁止樹種の輸出入、
  - ⑤関税法違反などの取引・貿易、
  - ⑥無許可の伐採区や無許可営業所からの取引、
  - ⑦伐採許可証明書を偽造の運搬・搬出、取引、
  - ⑧保護区域から丸太を買う地元企業と契約した木材取引、
  - ⑨など違法伐採の合法化とセットで実施される。
- また消費国の需要の急増が大きな原因となってきた。

### 価格操作等の違法行為とは

- ①実際の輸出量より少ない数量、金額の報告・申告、取引、
- ②賄賂金額を上乗せした価格、
- ③資金を子会社などに移し借入金流用で操作の取引、
- ④実際の樹種を偽り、他の樹種として輸出入のための虚偽の報告・申告の取引、
- ⑤輸出又は国内市場で品質や価値無と格付けされた樹種の操作、故意の不適切分類の取引、
- ⑥加工許可なし子会社で製造等の価格操作、これらの行為は違法取引・密輸・違法貿易と切り離せない。



(写真上右・インドネシア西カリマンタンからサラワク州への密輸 by Yayasan Titian/左・同様に陸路のサラワクの密輸 2006) by KAIL  
 (図・西カリマンタン・ケタパン、ポンティアナック、サンバスからサラワク州セマタンへ違法貿易ルート。陸路は、西カリマンタンの税関はエンチコン(Entikong)、バダウ(Badau)、サラワク州税関はセマタン(Sematan)、ピアワク(Biawak)、タビドゥ(Tebedu)、バツ・リントン(Batu Lintang)、ルボツ・アンツウ(Lubok Antu)。(写真下右・2004年撮影のインドネシアから丸太等を輸入のサラワク州セマタン港・丸太輸入は2001年にインドネシア政府が丸太輸出禁止令公布で、違法である！) by HUTAN



## 賄賂と森林犯罪とは

- ①権力者(首相や親族、官僚、軍・警察)や地元有力者(知事、議員等)に賄賂を贈り、伐採権取得を有利にする行為、
- ②権力者がそれを賄賂等と知りながらグルで推進する行為、
- ③森林保護の指導を受けていない地元職員等に違法伐採・貿易のため、違法な木材運搬の許可を手に入れる行為、
- ④「身の危険だ」と脅し、金品をつかませ、違法伐採・違法貿易を進める行為、
- ⑤森林開発や巨大農園・牧場開発のために、地元住民を強制的に立ち退かせ伐採を進める行為、
- ⑥海外企業が取得できない伐採権を手に入れるため、土地所有者や政府等に伐採権の割り当てを得る行為、
- ⑦密輸、違法伐採・違法貿易をわざと見逃し、金品を要求する行為、
- ⑧権力者や政府職員の裁量権が大きい時、最も支払力のある企業に対し多額の賄賂を支払い、賄賂行為を習慣化させること。汚職を固定化させ、森林保全を邪魔する行為、

これら違法伐採、価格操作、賄賂、違法取引・貿易は、「法整備の不備、法施行の不十分も要因であり、森林犯罪を大半行い、絡む木材マフィアが国際市場の価格を歪め、持続可能な森林経営も壊している」(\*)。多くのNGOsが違法伐採・違法貿易の実態を伝えてもその国の政府が、企業が、いかに違法材材停止に向け取組みを実施するかである。

(\*)『Illegal Logging and Global Wood Markets』2004年11月 米国木材工業連合会調査 及びインドネシアNGOsから聞き取り



7)【インドネシア、サラワク州の税関は No チェック！ 2005年10月】・インドネシア政府が【違法材撲滅宣言】へ!!



写真 by ウータン 2005 年

(写真上左・インドネシア・カリマンタンの国立公園で伐採、上中・右・インドネシアからサラワクへ運ぶ木材)  
 (写真中と下・2005 年 10 月カリマンタン・エンチコン税関で全ての車の幌、トランクを開けず、フリーパスさす)



①



②



③

＝2005 年、国際熱帯木材機関(ITTO)等の国際機関でウータン、Telapak が違法伐採・密輸を公表＝

2005年10月16－17日、インドネシア西カリマンタンとマレーシア・サラワク州の間で、違法取引の検査がされているか確認の【張付き調査】をインドネシア NGO の Telapak とエンチコン(Entikong)で実施。

一国境ゲートが開く朝 5 時前の午前 3 時半から15台のトラック、数台のバス、乗用車が税関前から並ぶ。ゲートが開き 5 時半になっても、税関検査員はトラック等の幌やトランクを開けずに通過させた。次々とトラック、バスが 1-2分で国境を通過する。午前 7 時、税関では木材トラックが来ても通行許可書の確認だけで、トラックの幌を開けずに通過させた。全く検査なしである。フリーパスだ!!

12時を過ぎると通貨量が減り、場所を変えて確認する。場所を変えながら夕暮れも継続調査。何と午後5時に税関ゲートが閉まっていたが、サラワクから空荷トラックが通る。今度は午後9時、10時過ぎに各1台木材を積んだトラックが税関の方でなく、抜け道へ行く。インドネシア側だけでなく、サラワク州国境の町タビドゥ近くの村も無検査だった!!(\*)

西カリマンタン NGO のKAIL (Kalimantan Anti Illegal Logging) ダルマワン氏は「税関近くに木材企業があり、以前から金をつかませている。だから無検査。毎日100台前後のトラックが国境の山を越え、サラワク州へ木材を運ぶ。インドネシアとサラワク州間に5箇所税関があるが、国境の通行検査無の道は12箇所あり、バイク利用の道も含めると約100箇所。西カリマンタンで操業の大半の木材企業はサラワク州資本。だからマレーシアに密輸するのだ」と言う。

国際的に違法材を停止させるような流れが出来はじめ、2005年からインドネシア政府は、同国 NGOs の力もあり、違法伐採対策に取り組みだした。2005年1月3日、ユドヨノ大統領は【違法材撲滅宣言】を発す。

持続可能な森林経営が困難と判明したことや、国際的なラミン材の停止活動、西パプア州でメルバウ違法取引の継続等で、同国政府は劇的な政策転換をし、NGO のトップを林業大臣相談役に抜擢。軍司令官も変え、今まで木材マフィアと組んでいた警察や軍も違法材摘発へと動き出した。ユドヨノ・インドネシア政府の大きな変化だった。

(\*)『Timber Smuggling in Indonesia』CIFOR2006 及び Sarawak Timber Industry (STIDC) 2000 年で、月 75 万-100 万 m<sup>3</sup>、1000 万 m<sup>3</sup>/年が密輸

8)【違法材停止—国際的な方向へ向かいだす】

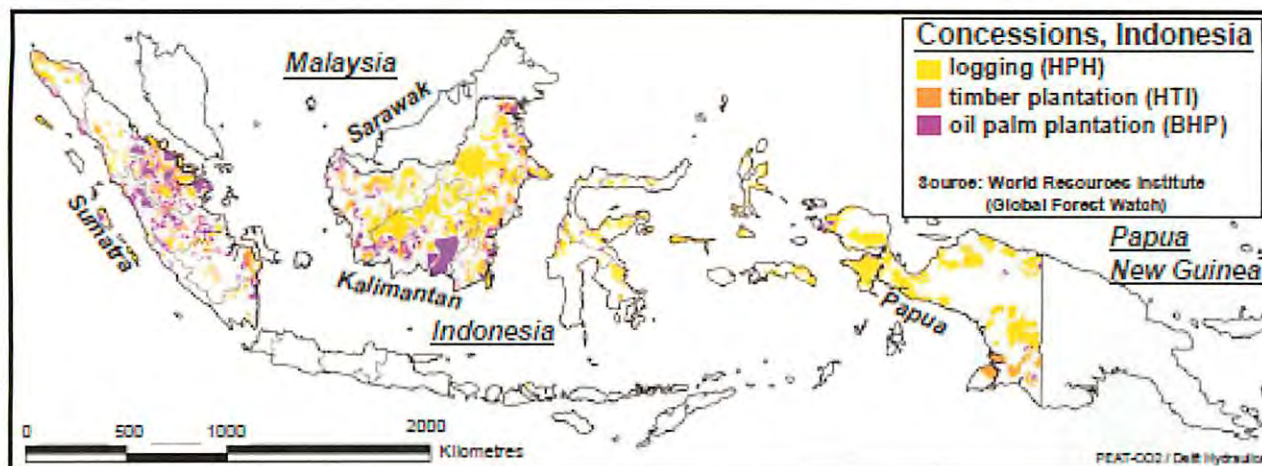
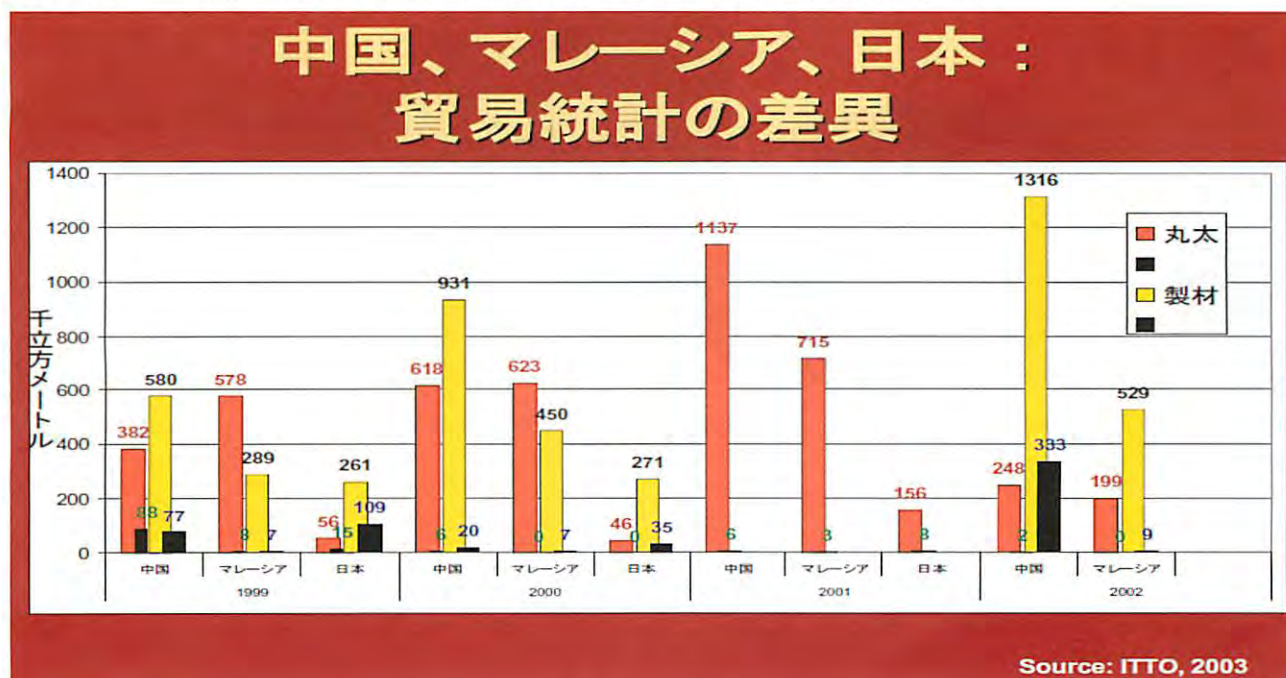


Figure 9 Concessions in Indonesia (Source: World Resources Institute / Global Forest Watch).

上図 インドネシアの伐採、アブラヤシ農園の状況 [◆伐採地(HPH-森林事業権)、◆産業人工林(HTI)、◆アブラヤシ農園]  
 下図 ITTO(国際熱帯木材機関)による輸出入木材の差=密輸、違法輸入、計測の差等による



2000年私たちウータンや多くのNGOsが違法材使用の重要性に気づき、日本政府に違法材停止を申し入れた。この年にG8(先進8カ国)環境大臣会合が滋賀で開催された。ウータンは当時の農林水産大臣・谷津義男氏に30分、元首相橋本龍太郎氏にも話す。「違法材停止は重要な問題です。このままでは、違法材流入のため持続可能な森林経営を進めることができません。伐期になっている国内林が立ち枯れ状態になる上、世界の市場が違法材の価格で狂わされることとなります。政府として対策を検討していただくようお願いいたします」と伝えた。その後のG8沖繩サミットで、[違法材問題検討、持続可能な経営を目指す]と決議されたが、実施が進まないためFoEJapanとウータン等は、共同提案を2002年の世界サミット(WSSD)へ提示した。

だが依然としてインドネシア等で違法伐採が進み、2002年以降、TelapakとEIAは、とりわけ密輸ラミン材の取り締まりを実施するよう繰り返し働きかけた。また多くのNGOsが違法材問題に取り組み、2003年の英国・インドネシア間2国間違法材協定や【日本・インドネシア間違法材停止へ共同アクションプラン】等が作られ、2004年頃より多くの先進国の政府が違法材停止の方向へ政策を取り始めた。とりわけ、2005年からのインドネシア政府の動きで変わりだした。